

守山企業景況調査報告書

(第45回)

令和2年10月～令和2年12月期 実績

令和3年1月～令和2年3月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和2年10月～令和2年12月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業69社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	14	70.0%
製造業	13	11	84.6%
建設業	12	9	75.0%
サービス業	19	15	78.9%
卸売業	5	4	80.0%
合計	69	53	76.8%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和2年10月～令和2年12月、見通しを令和3年1月～令和3年3月とし、調査時点は令和3年1月31日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和2年10月～令和2年12月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和2年10月～12月期の調査結果では、業況、資金繰りの2指標は低下し、売上高、採算の2指標の数値が上昇した。

<業況>

業況DIは▲47.1で前回調査の▲45.1から2.0ポイント低下した。業種別では、小売業▲57.1（前回調査比▲14.2）、製造業▲63.6（前回調査比+9.1）、建設業0.0（前回調査比+1.1）、サービス業▲61.5（前回調査比▲7.7）、卸売業▲25.0（前回調査比±0.0）と製造業と建設業は上昇した。

1月～3月期見通しは全体で▲48.9である。

<売上高>

売上高DIは▲49.1で前回調査の▲54.9から5.8ポイント上昇した。業種別では、小売業▲50.0（前回調査比±0.0）、製造業▲45.5（前回調査比+27.2）、建設業▲11.1（前回調査比▲11.1）、サービス業▲73.3（前回調査比+11.3）、卸売業▲50.0（前回調査比±0.0）であり、製造業、サービス業が上昇した。

1月～3月期見通しは全体で▲50.9である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲45.3で前回調査の▲48.1より2.8ポイント上昇した。業種別では、小売業▲42.9（前回調査比±0.0）、製造業▲54.5（前回調査比+9.1）、建設業▲11.1（前回調査比±0.0）、サービス業▲66.7（前回調査比▲2.4）、卸売業▲25.0（前回調査比+25.0）で製造業と卸売業が上昇した。

1月～3月期見通しは全体で▲52.9である。

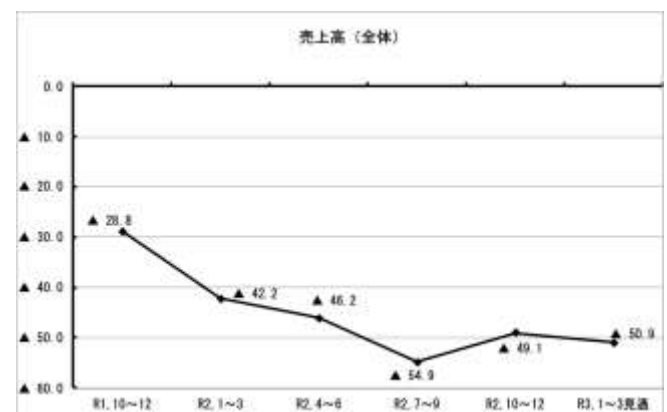
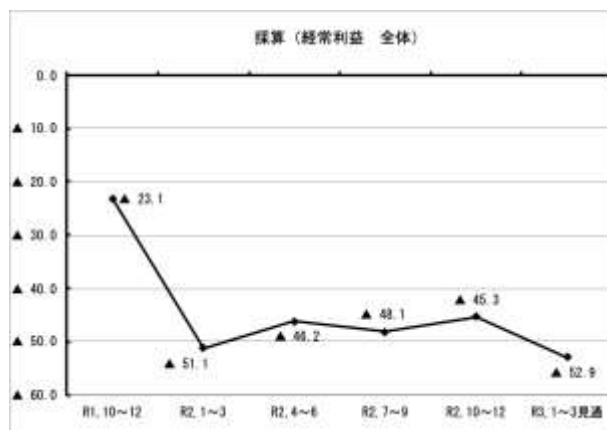
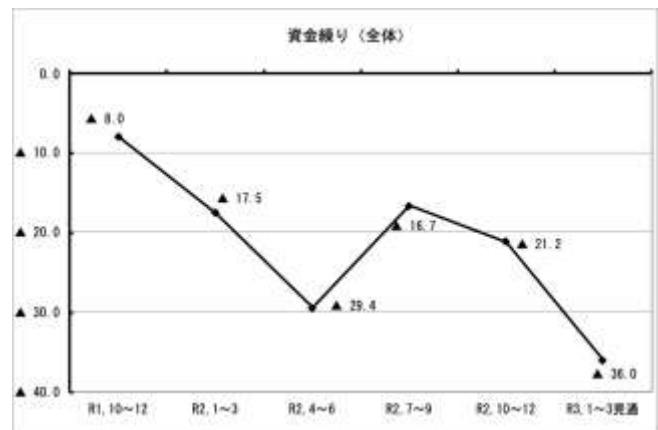
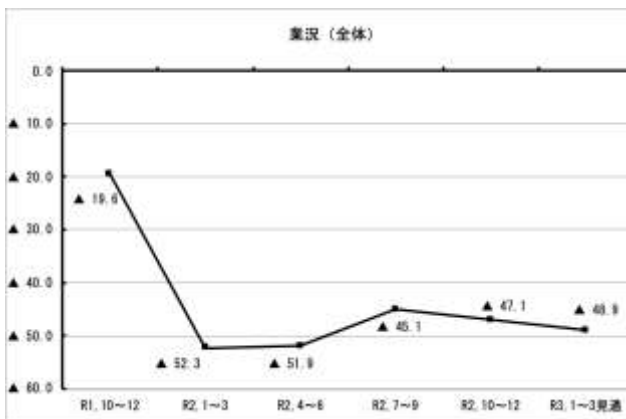
<資金繰り>

資金繰りDIは▲21.2で前回調査の▲16.7から4.5ポイント低下した。業種別では小売業▲28.6（前回調査比±0.0）、製造業▲20.0（前回調査比▲20.0）、建設業0.0（前回調査比+12.5）、サービス業▲33.3（前回調査比▲8.3）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）で建設業が上昇した。

1月～3月期見通しは全体で▲36.0である。

<コロナウイルスの影響などの意見>

- ・ 行政や商工会議所の施策、対応に感謝しています。今後国民間、業種間の格差、不平等感の解消にさらに努めていただきたいと思います。一方で、不必要に不安を煽るマスコミ等に対し毅然とした態度を取っていただきたいと思います。その意味でも、商工会議所が賀詞交換会を実施されたことは意味深いことだと思いました。
- ・ GO TO が一時中止になり全てキャンセルになったが、経費は通常通り必要ですので大変です。
- ・ 現状でも企業の設備更新の停滞などの影響があり、今後、個人向け需要に影響が出る可能性がある。
- ・ 令和2年はコロナ禍で客足、売り上げ、全てが失われるか減少した。この状態がいつまで続くか分からないので、全ての計画を中断して見守るしかない。



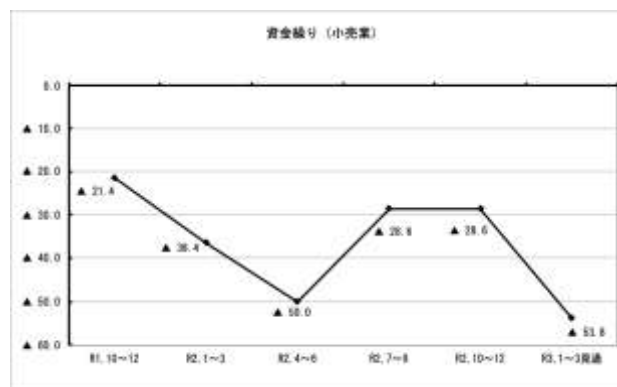
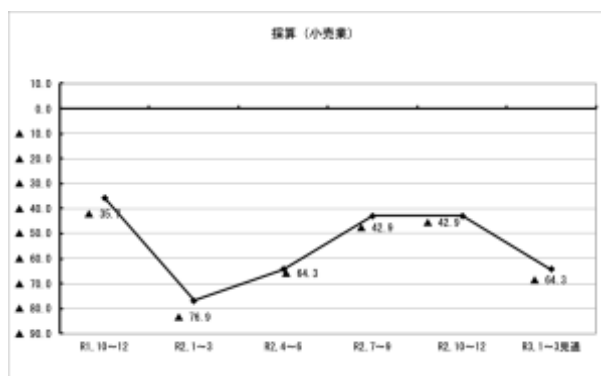
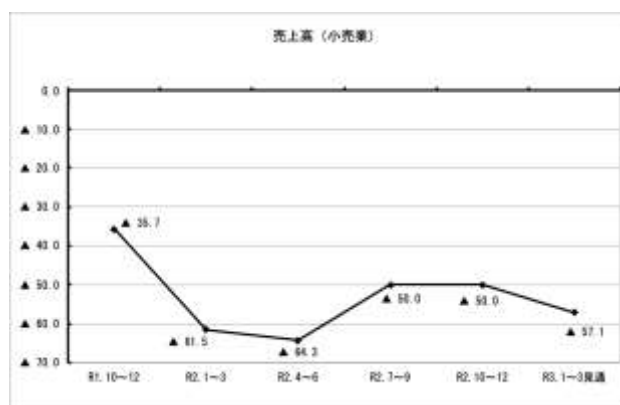
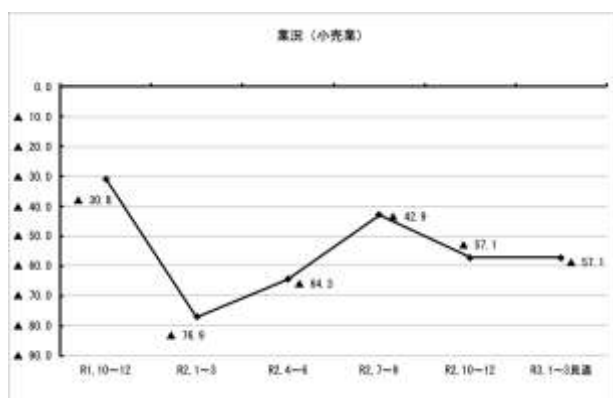
小売業

小売業の業況DIは▲57.1で前回調査に比べて14.2ポイント低下した。令和2年1月～3月期を底として二四半期連続で上昇してきた業況であるが、10月～12月期は低下に転じた。令和3年1月～3月木見通しは▲57.1と今回実績と同じであり、回復は見通せない。

売上高DIは▲50.0で前回調査と同じであった。前回調査で上昇に転じたが今回調査では横ばいであった。令和3年1月～3月期見通しは▲57.1と低下の見通しとなっており、回復の見通しはない。

採算（経常利益）DIは▲42.9で前回調査と同じであった。前回、前々回調査では二四半期連続の上昇であったが、採算も上昇にストップがかかった。令和3年1月～3月期見通しは▲64.3と落ち込んでおり、採算の見通しは厳しいようである。

資金繰りDIは▲28.6で前回調査と同じであった。他の指標と同じように今回調査では資金繰りも数値の上昇が止まってしまった。令和3年1月～3月期見通しは▲53.8でかなり落ち込んでおり、資金繰りが厳しくなりつつあるようである。



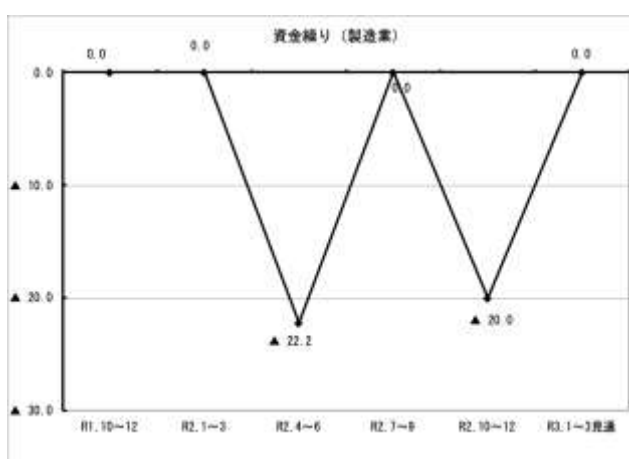
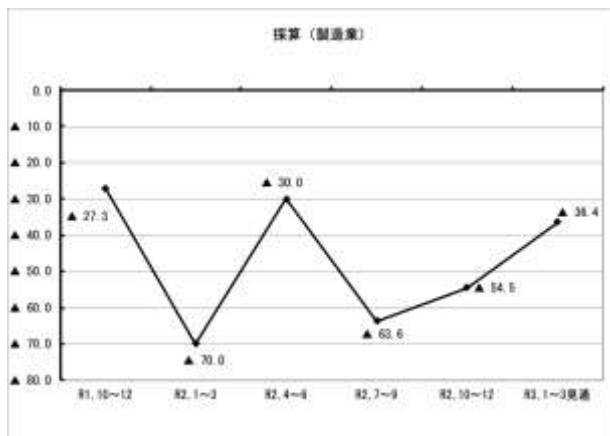
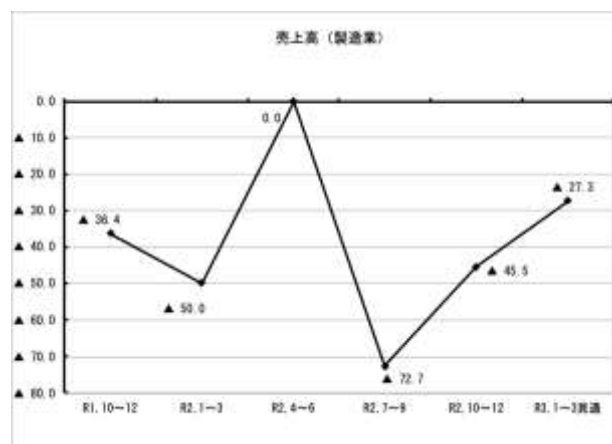
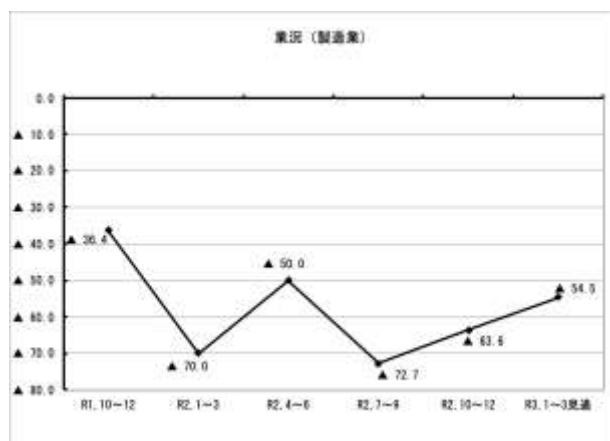
製造業

製造業の業況DIは▲63.9と前回調査に比べて9.1ポイント上昇した。個別の調査結果を見ると業況が良いとする回答もある反面、悪いとする回答が圧倒的であり事業所間格差が見られる。令和3年1月～3月期見通しは▲54.5と上昇の気配である。

売上高DIは▲45.5で前回調査と比べて27.2ポイント上昇した。業況と同じく、前回調査に比べて改善している。売り上げも個別の回答では増加と回答しているものがありここでも格差があるようである。令和3年1月～3月期見通しは▲27.3で改善する見通しである。

採算DIは▲54.5で前回調査より9.1ポイント上昇した。業況、売上高と同じく前回調査から上昇している。製造業は前回調査時点の落ち込みが激しかったと見られるかもしれない。令和3年1月～3月期見通しは▲36.4で改善する見通しである。

資金繰りDIは▲20.0で前回調査から20.0ポイント低下した。前回調査で0.0になったが、今回はマイナスであった。資金繰りは拡大期に一時的に悪化することがあるのでその現象かも知れない。令和3年1月～3月期見通しは0.0で通常の数値に戻っている。



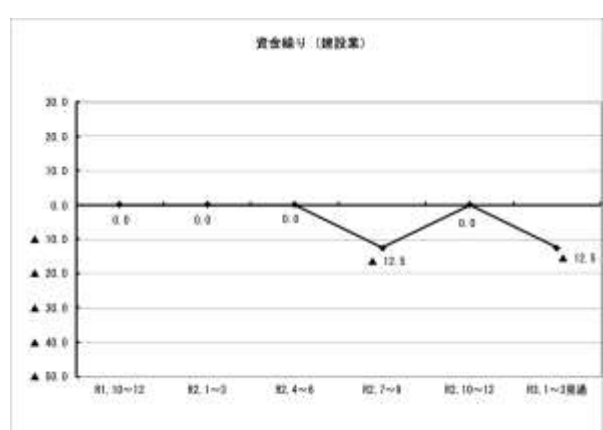
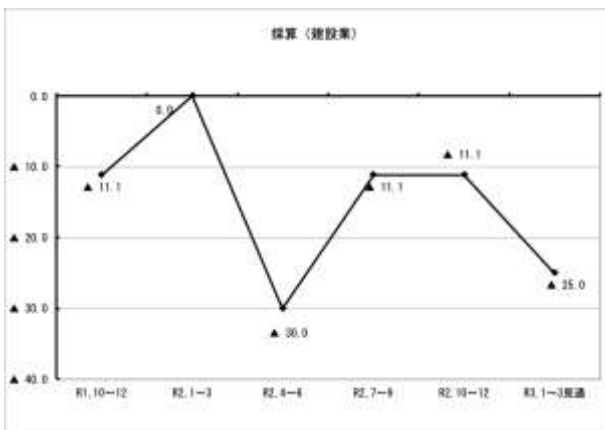
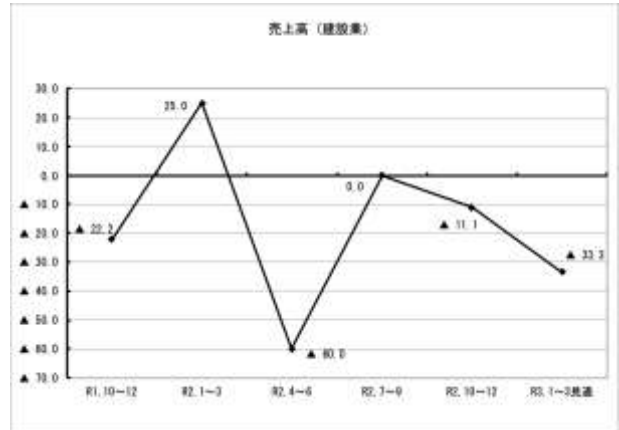
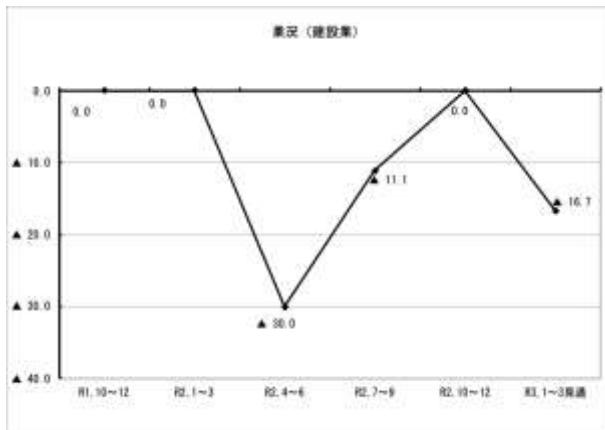
建設業

建設業の業況DIは0.0であり前回調査から11.1ポイント上昇した。二四半期連続の上昇である。また、0.0となったことで1年前の令和1年10月～12月期調査時点まで数値が戻った。令和3年1月～3月期見通しは▲16.7で低下見通しである。

売上高DIは▲11.1で前回調査より11.1ポイント低下した。前回調査が60ポイントの上昇前々回調査では85ポイントの低下と数値が大きく動いた今回は動き幅が少なくなり落ち着いてきたようである。令和3年1月～3月期見通しは▲33.3と低下の見通しである。

採算DIは▲11.1で前回調査と同じであった。1年前の令和1年10月～12月期と同じ値であり、その意味では数値が1年前まで戻ったと見ることができる。令和3年1月～3月期見通しは▲25.0と低下している。

資金繰りDIは0.0で前回調査より12.5ポイント上昇している。建設業の資金繰りは前回調査を除けば過去から0.0になることが多く、今回調査時点でも0.0になり通常値に戻ったとマルコ科でいる。令和3年1月～3月期見通しは▲12.5なので一部に不安があるようである。



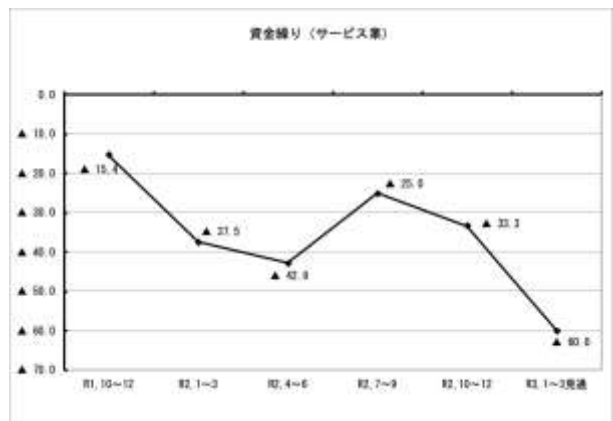
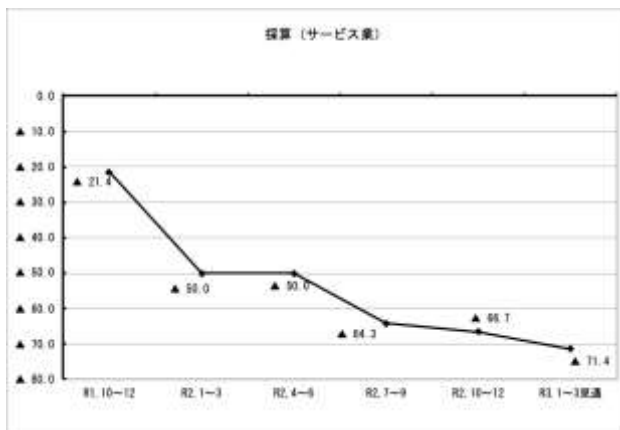
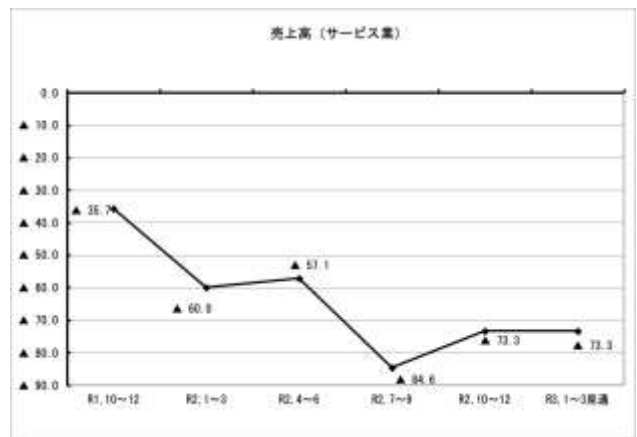
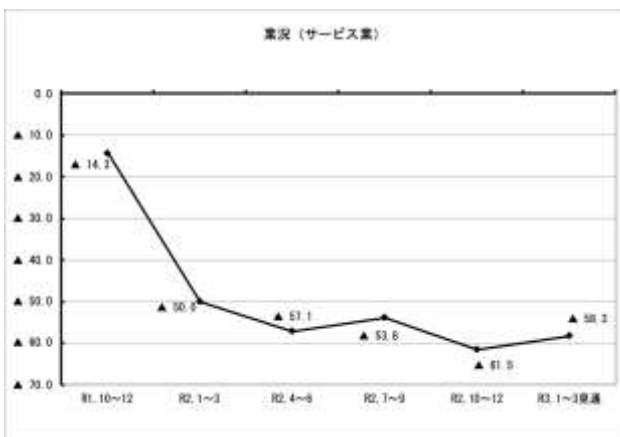
サービス業

サービス業の業況DIは▲61.5で前回調査より7.7ポイント低下した。1年前の令和1年10月～12月期が▲14.3であったので令和2年の1年間はかなり厳しい期間であったと言わざるを得ない。令和3年1月～3月期見通しも▲58.3でこのままの厳しさが予想されている。

売上高DIは▲73.3で前回調査より11.3ポイント上昇した。前回調査の▲84.6に比べると改善しているように見えるが、相対的に低い値であることには変わりがない。令和3年1月32月期見通しも▲73.3で今回調査と同じ値であり光は見えてこない。

採算DIは▲66.7で前回調査より2.4ポイント低下した。採算に関しても改善の兆しは見えなかった。さらに、令和3年1月～3月期見通しは▲71.4と今回実績よりさらに悪化する見通しであり厳しさが続きそうである。

資金繰りDIは▲33.3で前回調査より8.3ポイント低下した。令和3年1月～3月期見通しの▲60.0は資金繰りが危機的な状況にある可能性が高い。



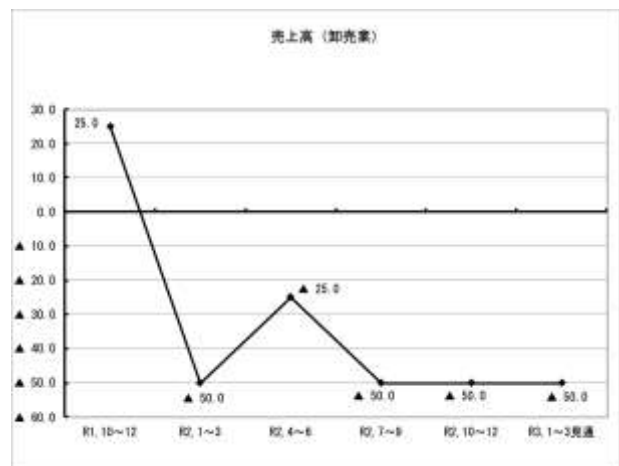
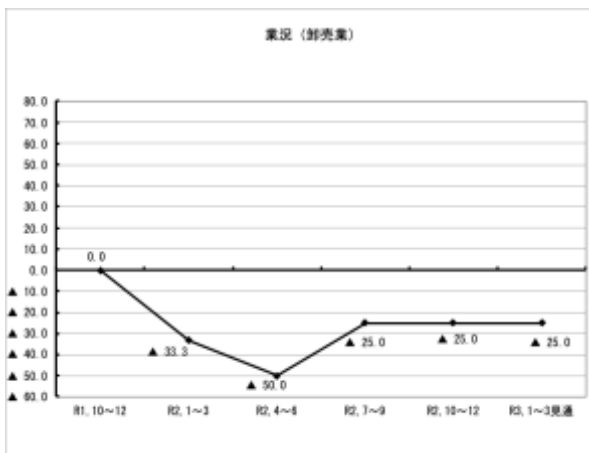
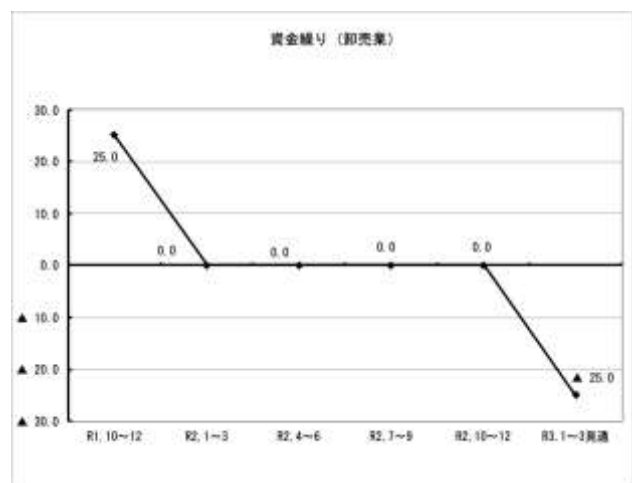
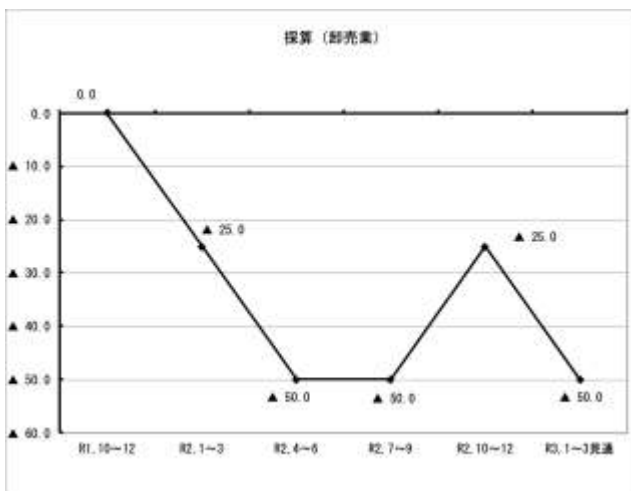
卸売業

卸売業の業況DIは▲25.0となり前回調査と同じであった。令和3年1月～3月期見通しも▲25.0で業況は悪いながらも安定していると感じられているようである。

売上高DIは▲50.0で前回調査と同じであった。売上高も令和3年1月～3月期見通しが今回調査と同じ値であり、前回調査時点から今回調査、次回見通しまで悪いままの流れが続きそうである。

採算DIは▲25.0で前回調査と比べて25ポイント上昇した。1年前の令和1年10月～12月期が0.0でその後令和2年の1年間は▲25.0から▲50.0に落ち込み再び▲25.0に戻って終わった。令和3年1月～3月期見通しは▲50.0で再び低下見通しで明るさはない。

DI資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。卸売業の資金繰りは安定的な動きを見せている。令和3年1月～3月期見通しは▲25.0で1年間続いた0.0という資金繰りの安定が崩れるかのような見通しである。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	10～12月期 動向	1～3月期見 通し	10～12月期 動向	1～3月期見 通し	10～12月期 動向	1～3月期見 通し
全 体	▲ 47.1	▲ 48.9	▲ 49.1	▲ 50.9	▲ 45.3	▲ 52.9
小売業	▲ 57.1	▲ 57.1	▲ 50.0	▲ 57.1	▲ 42.9	▲ 64.3
製造業	▲ 63.6	▲ 54.5	▲ 45.5	▲ 27.3	▲ 54.5	▲ 36.4
建設業	0.0	▲ 16.7	▲ 11.1	▲ 33.3	▲ 11.1	▲ 25.0
サービス業	▲ 61.5	▲ 58.3	▲ 73.3	▲ 73.3	▲ 66.7	▲ 71.4
卸売業	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 50.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	10～12月期 動向	1～3月期見 通し	10～12月期 動向	1～3月期見 通し	10～12月期 動向	1～3月期見 通し
全 体	▲ 11.5	▲ 17.3	▲ 46.0	▲ 49.0	▲ 10.2	▲ 8.3
小売業	▲ 35.7	▲ 21.4	▲ 58.3	▲ 38.5	▲ 16.7	▲ 25.0
製造業	0.0	9.1	▲ 45.5	▲ 36.4	0.0	18.2
建設業	▲ 11.1	▲ 12.5	▲ 44.4	▲ 25.0	42.9	28.6
サービス業	▲ 14.3	▲ 26.7	▲ 57.1	▲ 53.3	▲ 26.7	▲ 28.6
卸売業	50.0	▲ 50.0	25.0	▲ 75.0	▲ 50.0	▲ 25.0

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	10～12月期 動向	1～3月期見 通し	10～12月期 動向	1～3月期見 通し	10～12月期 動向	1～3月期見 通し
全 体	▲ 21.2	▲ 36.0	▲ 2.4	0.0	▲ 2.4	▲ 4.9
小売業	▲ 28.6	▲ 53.8	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0
製造業	▲ 20.0	0.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0
建設業	0.0	▲ 12.5	14.3	14.3	0.0	0.0
サービス業	▲ 33.3	▲ 60.0	0.0	9.1	9.1	0.0
卸売業	0.0	▲ 25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

